

# Process オーダーメイドスーツができるまで



## 3 デザイン・裁断

採寸した数字を基に綿密に線を描いていく裁断士の都丸哲蔵さん。体形の特徴によって微妙にカーブを変えるなど、さすが熟練の技。

## 2 採寸

オーダースーツの魅力であるフィット感を左右する重要な工程。体の各部分のサイズを測りながら体型の特徴やオーダー主の好みを細かく読み取り、裁断師に託す。



## 1 素材・デザインの選定

数多くのサンプルの中から生地とボタンなどのパーツを選び、デザインを決定。



グレーのシャドーストライプの生地に、粋な印象を与える臍脂色の裏地で遊び心を取り入れる。オーダーメイドならではの楽しみ



## 4 仮縫い

不自然な皺が無いか、きちんと身体にフィットしているかを念入りに確認。都丸社長の目が鋭く光る。



## 5 縫製

年季の入ったミシンを使い、職人が1着1着丁寧に縫い上げる。



## 6 完成

スレンダーなAさんのスタイルを引き立てる完璧なシルエット。「既製品ではなかなか合わなかった肩や太もものサイズもぴったりです」



さらに仕上がりの完成度を高めるために行われるのが、約1週間後の「仮縫い」の作業。縫製前のステップを着て、シルエットやフィット感を確認していく。特に着心地を大きく左右する肩と腰のラインは念入りにチェック。Aさんの希望を確認しつつ、美しいシルエットに仕上がるようミリ単位で補正を施す。

仮縫いからさらに1週間後、待ちに待ったスースが完成。袖を通したとたん、Aさんから「これは軽い…」と感嘆の声が。

「型崩れを防ぐため高級な芯地を使用しているので、実際は既製品より重い。でも、体にフィットしているから軽く感じるのです」と、都丸社長。

「とにかく肩が楽。まったくストレスを感じません。スーツは窮屈なものと思つていましたが、オーダーメイドはひと味違う。次も絶対、オーダーですね」

続いては採寸。単純に寸法を測るだけではなく、体型の特徴や姿勢など、数値には表れない体のラインをチェックしつつメジャーを走らせる都丸社長。「スマートな体型ですが、肩幅が広い。既製品では肩にサイズを合わせると着丈が長くなってしまうでしょう」と、ズバリ、Aさんの悩みを指摘する。

### ノンストレスの極上フィット感